

足袋に合わせた 自慢のコーディネート

11月23日、産業文化会館を中心に食と農と環境フェスタ「2017ぎょうだ“夢”まつり」が開催され、会場はたくさんの来場者でにぎわいました。

また、同時開催された「行田足袋コレ2017」には市内外から20組26人が出場し、足袋を履いた自慢のトータルコーディネートを披露。今年の「ベスト足袋ニスト」の栄冠に輝いた若山理絵さん・ももさん親子は「親子で良い思い出ができた」と笑顔で話し、会場からの声援に答えていました。



青年海外協力隊員として エチオピアへ出発

12月15日、JICAの青年海外協力隊の一員として2年間、エチオピアへ派遣される原つきさんが、市役所を訪れました。

大学で国際関係論を学んだことがきっかけで国際協力に興味を持つようになった原さんは、発展途上国の生活向上に貢献したいという思いから青年海外協力隊員に応募。エチオピアでは、ロープポンプと呼ばれる井戸の普及を図るための活動を行う予定です。工藤市長から激励された原さんは「現地の水環境を少しでも改善できるよう頑張りたいです」と意気込みを語りました。



足袋を履いて 正しい歩き方を身に付ける

12月10日に行田グリーンアリーナサブアリーナで「足袋で健康に!」をテーマに身体づくりセミナーが開催されました。

セミナーでは、はだしランニング・足袋ランニングの第一人者である高岡尚司さんが、正しい姿勢や歩き方を解説。足袋を履くことで足の運びが丁寧になり、歩き方に変化を与えると話しました。参加者は高岡さんの指導の下、棒を使った歩き方などの訓練に真剣に取り組んでいました。



行田市観光大使のNoeさんが 情感たっぷりの歌声を披露

12月9日、古代蓮会館でプレミアムイベントが開催され、行田市観光大使でシンガーソングライターのNoeさんがコンサートを行いました。

イルミネーションの飾り付けがされた館内でNoeさんはクリスマスソングやオリジナル曲「ハツコイソウ」など9曲を熱唱。会場に響き渡る情感たっぷりの歌声に、来場者は酔いしれていました。



たすきに思いを込めて

12月3日、総合公園で第61回「浮き城のまち行田」駅伝競走大会が開催されました。

3,000メートルコースなど13部門に、市内外から136チームが参加しました。冬の冷たい風を切り裂くようにさっそうとコースを走り抜ける選手たち。思いを込めたたすきを、チームメイトへつないでいきました。



一進一退の熱い試合展開

12月2日、(公財)行田市産業・文化・スポーツいきいき財団の主催で行田市ドッジボール大会が行田グリーンアリーナで行われました。

市内の小学3年生から6年生までを対象に、11校31チームが参加しました。子供たちは日頃の練習の成果を発揮し、仲間と息の合ったパス回しをするなど奮闘。一進一退の試合展開に会場の応援も熱が入っていました。



小さな白い花をみんなで守る

12月3日、星川の自然とキタミソウを守る会が主催する「冬のクリーン大作戦および観察会」が馬見塚橋周辺で行われました。

同会メンバーや地元住民ら約20人が星川の河川敷などの清掃や可憐に咲くキタミソウの花の観察を行いました。心配された台風の増水の影響も無く、今年は近年で最も多く花を咲かせており、2ミリほどの星形の白い花を春先まで見ることができます。



災害に備えた地域の連携

12月13日、太井公民館で同館主催による防災訓練が開催され、同館で活動しているクラブをはじめ自治会、民生委員など約100人が参加しました。

参加者は消防職員の指導のもと、初期消火訓練や簡易担架作成訓練を行い、防災安全課職員によるミニ講座を受講して防災に関する意識と知識の向上に努めました。また、この日は市と災害時応援協定を締結している社会福祉法人ときわ会(太井保育園)の協力により炊き出し訓練も実施。参加者に温かい食事が提供され、地域防災の連携の強化が図られました。